

M.U.NST NEWS

Mie university nutrition support team


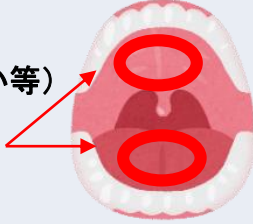

第10号

作業療法士 矢田木綿子
言語聴覚士 堀 真輔

嚥下障害がある患者さんの食事時の注意点

嚥下障害のある患者さんが食事をする際には、適切な観察と誤嚥の予防が重要です。
今回は嚥下障害のある方の食事時の観察ポイントについて記載しました。

食事時の観察ポイント

観察項目	ポイント
ムセがないか	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようなタイミングでムセるか (例: 飲み込んですぐか、しばらくたってからか等) ・どのような食べ物、飲み物でムセるか (例: 固形物は大丈夫だが、汁物はムセる等) 
口腔内の残留はないか	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような食べ物が残っているか (例: ゼリーなどの付着しにくい食べ物でも残るか等) ・口腔内のどの辺りに残っているか (例: 舌の上なのか、上顎なのか等) <p>※口腔内を定期的に確認してください。</p> 
食べ方はどうか	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢が崩れていないか (例: 2ページの不良姿勢参照) ・上手に口へ運べているか (例: 箸やスプーンが上手く持てない、口に運ぶまでにこぼれてしまう等) ・口からこぼれていないか ・食事時間はどの程度かかるか (例: 1時間以上かかっていないか等) 
声の変化はないか	<ul style="list-style-type: none"> ・食事前と比べて、ゴロゴロ声になっていないか

上記項目が目立つようならば、食事形態や食事方法の見直しをご検討ください

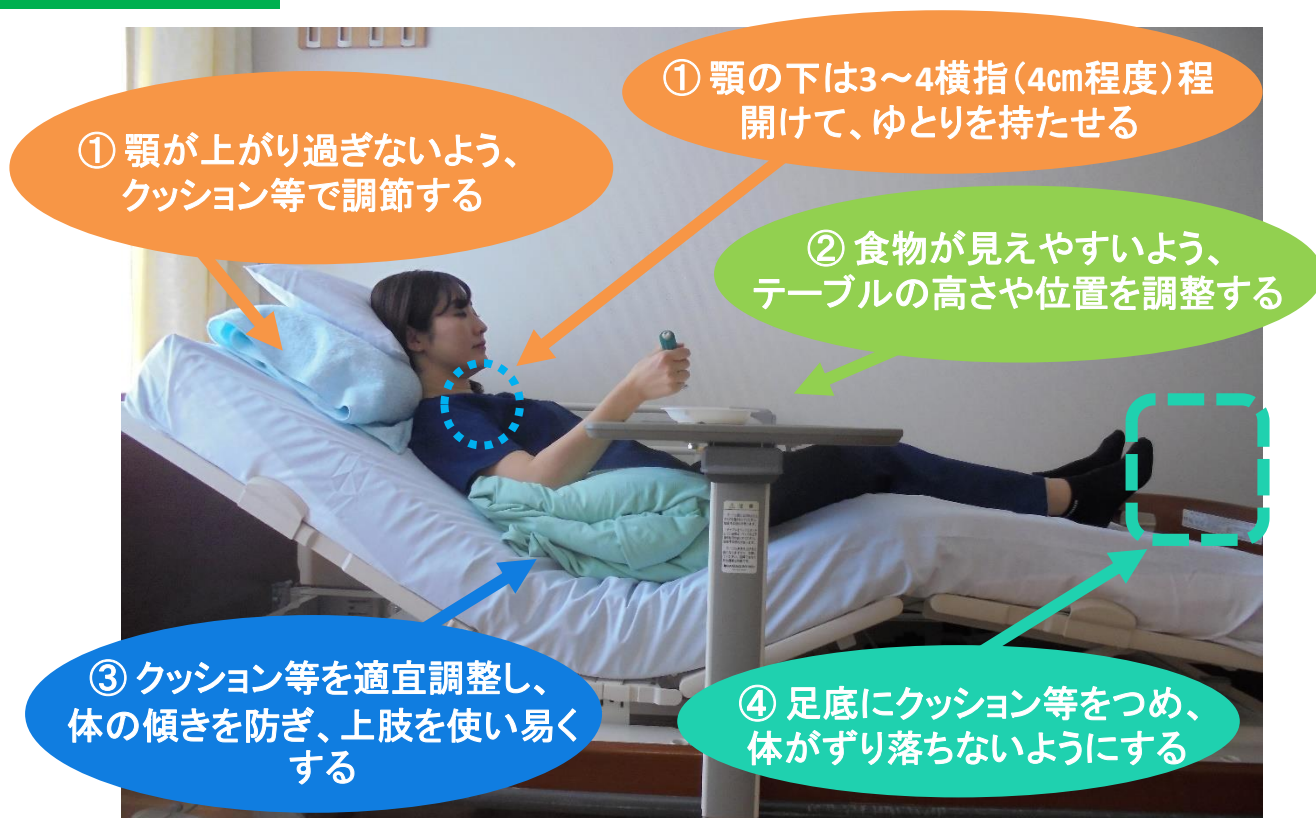
誤嚥の予防姿勢

適切な姿勢で食事を行うことは誤嚥の予防につながります。
患者さんの姿勢を観察し、可能な限り良い姿勢での食事をすすめましょう！

不良姿勢の例

- ① 顎が上がり過ぎている、または顎を引き過ぎている
- ② テーブル上の食べ物が見えていない
- ③ 身体が横へ傾いていってしまう、
上肢をうまく使えず、食具が使いにくそう
- ④ 身体が下にずり落ちてしまう

対応策の例



注) 上記写真は**ベッド上30度**の姿勢例であり、患者さんの能力や状況に応じて姿勢を考慮する必要があります。

注) 姿勢は、身体を上方まで引き上げてから、ギャッチアップして調整しましょう。

★ スプーンやフォーク等が使いづらくて患者さんがお困りの場合は、
作業療法士 (OT) までご相談ください！